

2013(仏暦2556)年6月7月合併号(第87号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派

万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

“供養、とは供え養うこと

■仏事のイロハ

引っ越しの時はお寺へも連絡を

■本願寺の本

お釈迦さまものがたり

■お知らせ、編集後記

Photo

4～5年前に家の軒下に作られたツバメの巣を目当てに、今年も盛んにツバメが飛び回っていました。昨年は、住み着かなかったようですが、今年はどうでしょう。

住職 法話

“供養”とは供え養うこと

八月はお盆になります。日本では誰もが知る、最大の仏教行事になっています。お墓参りなどをしてご先祖をご供養することが慣わしになっています。仏教では、この“供養”という言葉がよく使われます。“供養”は、広辞苑によると「三宝（仏・法・僧）または死者の霊に諸物を供え回向すること」とあります。

もともと“供養”は、インドの言葉（サンスクリット語）「プージャー」からきていて、「尊敬する」とか「崇拜する」という意味があります。それが、仏教の教えによって、尊敬する三宝へ物品を提供することになりました。また、進

んで物品を供給し、尊敬されるべき対象を養うということ、「進供養」がもとになつているとされます。

經典には、物品を供えるだけではなく、説法、読経、讃嘆、礼拝など仏事に関することも供養と呼ぶようになり、後には、灯明、水、花、食物などをそなえることも供養と呼ぶようになったそうです。

「阿弥陀仏の国の人々はいつも、すがすがしい朝に、それぞれの器に美しい花を盛り、他の国々の数限りない仏がたを供養する」と、『仏説阿弥陀経』にもあります。しかし、日本に伝わった供養は、先祖供養とか追善供養

など、亡くなった人に物を供え、その霊をなぐさめる慰霊の心が強いようです。

このように“供養”という言葉の由来をたどる中で、仏事に照らし合わせてみますと、“供える”という心持ちはあつても、“養う”という心持ちは欠けていることに気づかれます。それは、「進供養」といわれるように、物品をお供えすること、イコール、尊敬されるべきものを養っているということなのです。

お盆には、お寺へ出向いて、お供えにと、物品やお金などを持って行かれる方もおられるでしょう。それは、仏さま

へのお供えと同時に、三宝でもある僧（住職）を養っているということなのです。

逆に、私たち僧侶は、ご門徒に尊敬されると同時に養われている立場です。当たり前のように御布施やお供えをいただくのではなく、“養われている”という謙虚な姿勢を忘れてはなりません。いずれにしても、感謝の気持ちを忘れてはならないということでしょう。



仏事のイロハ

引越しの時はお寺へも連絡を

私のお寺では、毎月「寺報」を作って郵送しているのですが、時たま、いつもは届くはずの門徒宅が「転居先不明」で返ってくることはありません。す。「ああ、引越してしまわれたのか：」「それとも何かあったのかな」とあれこれ考えたり、「どうして連絡してくれなかったのかなあ」と寂しくなったりします。

近ごろは、一生同じ土地で過ごす人はまれになり、特に都市部では引越しがしばしば行われます。

そんな時、ガスや電気、水道、電話などはきっちり転居届けを出されるのですが、お

寺への連絡を忘れる(?)人がおられます。

お寺としては、それは教えるを伝える上から、また案内や諸連絡を行う上からも非常に困るわけで、必ずお寺に来て、転居後のお寺との関係をはっきりしておいていただきたいのです。

もし、お寺にお墓があったり、お寺名義の納骨所に先祖の遺骨を納めていたりすると、その管理についても話しておかねばなりませんし、転居先の住所もきちんと知らせおく必要があるのです。

そうした管理上の問題がな



く、お寺から離れるというのであれば、その旨を告げ、ご住職の了解を得て、転居先に近いお寺を紹介してもらって下さい。

引越して来た方で、しばしば「お西さん(浄土真宗本願寺派)のお寺をあちこち探しましたが、なかなか見つからなくて：」という声を耳にします。そういうことにならないためにも、引越し前に紹介してもらいましょう。

また、中には「お寺はいないから、別に今住んでいる所でお寺を探さなくてもよい」と思っている方があるかもしれません。お寺を「先祖やお墓を守る所」と考えておられるのでしょうか。

しかし、お寺というのは、本来的に「今生きている人に教えを説く所」であり、今の

生活を離れてあるのではないのです。その点から、教えを聞こうとする人には、全国どこのお寺でも門戸は開放されています。いなかにお寺がある人も、今住んでいる近くのお寺とご縁を結んで下さい。

「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺出版社刊より

「住職談」万行寺の佐久地域には、今まで一つも浄土真宗本願寺派のお寺がありませんでした。他県などから転居された方が、「なかなかお寺が無くて探していました」と新たなご縁を結ばせていただいております。最近では、軽井沢方面の方とのご縁が多いようです。



～本願寺の本～

お釈迦さまのものがたり

本願寺出版社 刊

仏教説話を絵本にしました。シリーズもので、現在、Ⅰ～Ⅲまで出ています。

私も、子供へ読み聞かせをしようとして、この絵本を考えています。



お知らせ

次号から、『仏事のイロハ』に変わって、『ごえん』という連載を始めます。“ご縁”ということばが仏教ではよく使われますが、どういう意味なのでしょう。そのことについて、本願寺からわかりやすい冊子が出ましたので、何回かにわたって連載していこうと思います。

仏教、そして“ご縁”について、少し見方が変わると思います。楽しみにしていて下さい。

本願寺では「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進しています。そとつながるホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～



編集後記

末本弘然著の『仏事のイロハ』より、順に仏事に関することを連載してきましたが、今回で終わりとなりました。◆これまで、一部、説明を加えないとわかりづらいつと判断した文面などは、省略させていただきました。例えば“教え”のことを、丁寧に“み教え”と表現しますが、わからない方には説明を加えなくてはなりません。そこは全て“教え”に統一しました。◆本の内容をそのまま写すだけではありましたが、この連載は好評を得ていました。仏事に関して初めて知らされたことが多かったようです。